

宮城県被災者復興支援会議の設置について

背景

震災から 1 年 7 ヶ月余りが経過し、県全体としては、発災直後の応急措置から復旧・復興に向けた取組へと着実に歩み始めている。

しかしながら、復旧・復興のスピードは、被災地域により異なり、被災者の求める支援ニーズも個別化・多様化してきている。

目的

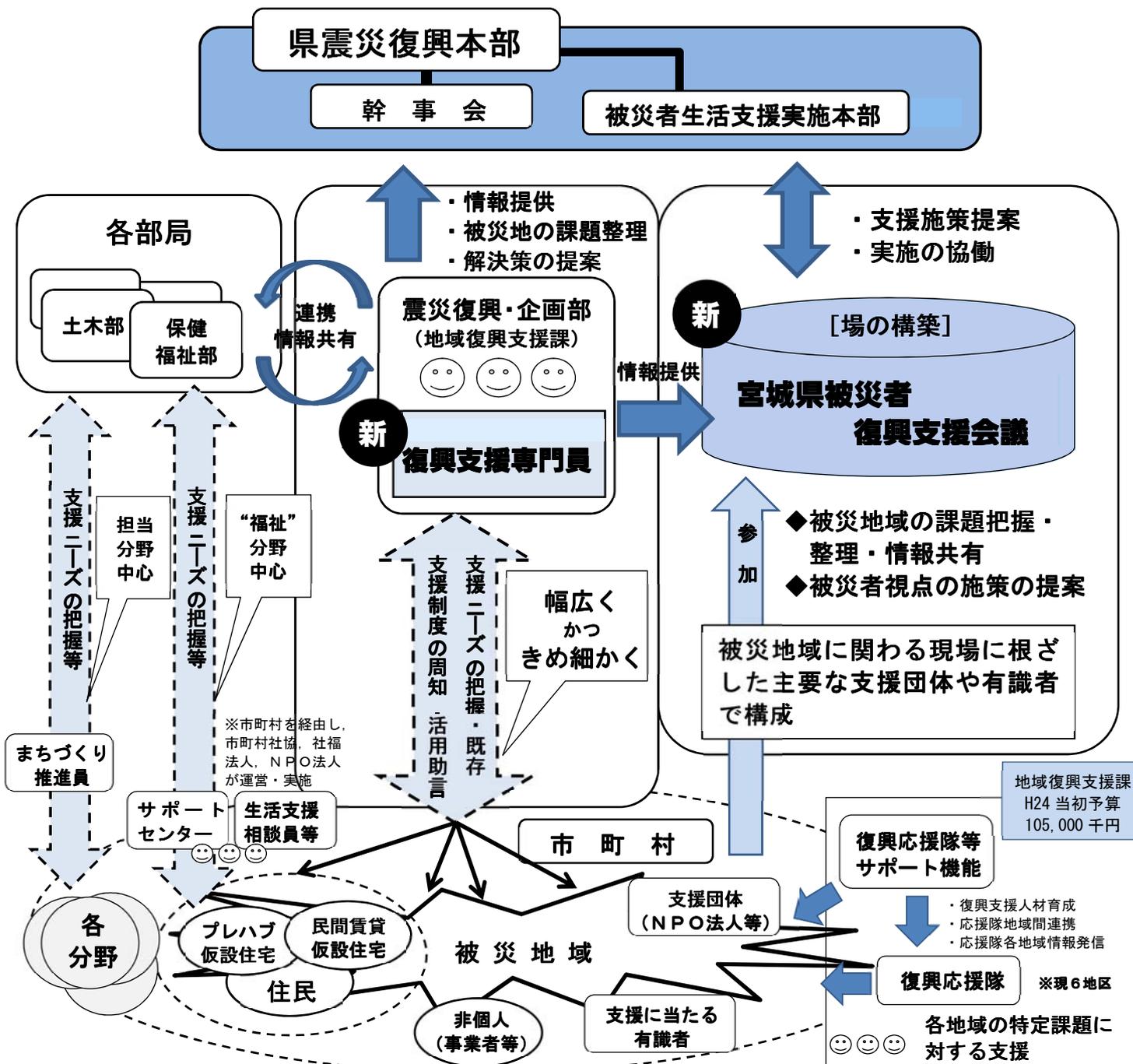
震災からの復興を早期に果たすため、県内において被災者支援に取り組む団体、有識者、行政等が一堂に会して被災地域の課題把握・整理・情報共有を図るとともに、各被災地支援主体と連携を図り、被災地域の現状を踏まえて、各種支援施策に関する協議や意見交換または県の施策実施に当たっての協働の役割を担う場を設置する。

組織

- ・ 学識経験者、被災者支援団体関係者等で構成し、行政関係者が同席して開催
- ・ 構成員のほかに、必要に応じて被災者支援活動関係者にオブザーバー参加を要請

議題

- ・ 被災地域又は分野別の復旧・復興の現状把握及び課題分析
- ・ 被災地の復興に向けて必要な支援施策の検討



◆震災発生から一定期間が経過し、被災地域間において復興のバラツキが生じ、支援ニーズも個別・多様化してきている
⇒ そのため、“支援ニーズの把握及び施策への反映”について一層の強化を図るもの

復興支援専門員の配置

- 被災地域の支援ニーズを幅広くかつきめ細かく把握。
- 被災地へと足を運び、様々な主体から情報収集。
- 現場目線での各種既存支援制度の現状把握及び周知・活用助言。
- 把握した情報は県震災復興本部等に提供し、各種支援施策へとつなぐ。

宮城県被災者復興支援会議

- 被災地域の課題把握・整理・情報共有や被災者視点での施策の提案。
- 被災地域に関わる現場に根ざした主要な支援活動団体等のメンバーや有識者により構成。